

## こども園で豆まき 大きな鬼を退治しました

2月3日の節分の日、まていの里のこども園で、豆まきが行われました。3歳未満児クラスでは、新聞紙を丸めて豆に見立てたものを、クラスに現れた鬼に一斉に投げ、退治しました。3歳以上児クラスでは、「ひいらぎいわし」を飾り、火を通し「いった豆」を使用しました。豆をいる良い香りに包まれていると、照明が消え、背後から鬼たちが登場しました。驚きながらも懸命に豆を投げ、鬼たちは退散。自分の中に潜む悪い鬼を無事退治した子ども達からは、思わず安堵の笑みがこぼれました。



びっくりして泣いてしまった子もいた3歳以上児クラス。鬼を退治して、またひとつ成長できたかな？

## 希望の里学園前期課程 各教室で一斉に豆まき

2月3日、いいたて希望の里学園前期課程の児童が、各学年の教室で豆まきを行いました。この日の豆まきを企画したのは、5年生の児童です。前期課程の1～6年生が、校内放送と同時に、各教室で一斉に豆まきを開始しました。自分の中の追い出したい鬼を絵で表現し、そこに向かって豆を投げ、追い払いました。

また給食の時間には、5年生が豆まきの由来や豆まきクイズを校内放送で披露。児童が描いたそれぞれの鬼の絵は、学園の昇降口に掲示されました。



写真は今年の豆まきを企画した5年生の教室の様子。楽しみながら鬼を退治することができました。

## 1年生×老人クラブ連合会 つくった凧で凧揚げしたよ！

1月27日、学園の1年生が凧づくりと凧揚げに挑戦しました。毎年恒例の取り組みで、凧の先生は、飯館村老人クラブ連合会の皆さんです。

この日つくった凧は、「ビニール凧」です。子ども達は、空に舞い上がる姿を想像しながら、それぞれ好きな絵を透明なビニールの上に描きました。また、凧の先生に工程を教わりながら、竹ひごの骨や糸を丁寧に取り付けました。やさしい指導のおかげで、やがて全員のオリジナル凧が完成。雪が積もった校庭で、凧揚げを楽しみました。



手から手へ、凧づくりを教わりました。凧が仕上がると、いざ校庭へ！全力疾走で凧揚げを楽しみました。

## 福島大学食農学類 飯館村フィールド活動報告会

食農学類の皆さんは、2年次後期から1年半をかけ、「農学実践型教育プログラム」で、地域の食と農に関する課題に取り組んでいます。実践のフィールドは県内7市町村にあり、その一つが「飯館村フィールド」です。



2月16日、交流センター「ふれ愛館」で、福島大学食農学類・飯館村フィールドの活動報告会が開催されました。報告会のタイトルは「飯館村の地域資源を生かした賑わいづくり」。関係者の他、活動に関心を持つ村民の方々も来場し、学生の報告に耳を傾けました。

### 特産品を応援し知名度アップを図る 飯館魅力発見!班 第2号



ジャガイモ「イータテベイク」とカボチャ「いいたて雪つ娘」に着目して飯館村の魅力を発信しようと取り組みました。素材の分析や、特性を生かした料理の考案などを行い、パンフレットやリーフレットを作成。学内や村内のイベントで来場者に配布しました。

### 飯館村に「いいたね」時こう いいたね班



飯館村フィールド  
Instagram

人を呼ぶことを目的とした情報発信、イベントなどを実践し、その効果を検証しました。目指したのは「知る・来る・また来る」の流れの構築です。若年層への情報発信にはInstagramが有力であること、来村のきっかけには「イベント・祭」が有力であることなど、調査結果を報告しました。

### 農地を活用し、新たな魅力を作ろう！ いいたて環境班2022



電気柵  
チェック  
シート

作付けしていない農地に「赤ソバ」を播種。景観作物としての可能性を探りました。またモデル農地でサルの侵入経路となっていた木を伐採。電気柵設置・管理のチェックシートも作成しました。菜の花の押し花を使った葉は、村の魅力発信に活用しました。

### 来年度(3年次)の活動に向けて 今年度後期から活動する2年生

飯館村の村づくりの歩みについて、学びを深めています。次年度に向けては、着目する製品の知名度アップ・賑わいづくりにつながる収穫体験会やマルシェの開催、さらには商品開発などのアイデアを温めています。考案した料理の振る舞いや村民との交流なども目指していくそうです。



報告の後の交流の時間

